

茅風



— Breeze from the field of thatch-grass —

2014年9月1日

森林塾青水

事務局便り

茅風通信 43号



水守の像

- 5月～8月の活動報告（事務局）……………1
- 一般参加歓迎プログラム②
「芦ノ田峠古道散策」……………2
- ◆開催報告(草野)
- ◆参加者感想（星見）
- 一般参加歓迎プログラム③
「侵入木除伐と防火帯刈り払い」……………3
- ◆開催報告(草野・西村)
- ◆参加者感想(藤岡・飯村)
- 第一回東京楽習会
「利根運河—その歴史と役割を学ぶ」……………6
- ◆開催報告(稲)
- 麗澤中学校「水源の森フィールドワーク」……………7
- ◆実施報告(浅川)
- 藤原現地報告……………8
- ◆「上ノ原」活動報告(北山郁人)
- ◆古民家再生・整備状況について(北山郁人)
- 藤原の“ほっと”ショットコーナー(中村智子) ……10
- 野守のつぶやき(清水英毅)……………11
- 編集後記 (敬称略)

■ 5月～8月の活動報告

【 5月 】

- 17日 柏市にて麗澤中学校樹木観察会を実施。指導側 15名、生徒 146名が参加しました。
- NPO 法人奥利根水源地域ネットワークの協力により、「藤原ガイドマップ」新版が完成しました。
- 古民家の床張り作業が修了。台所などの整備はまだですが、とりあえず休憩可能になりました。
- 27日 みなかみ町が「ユネスコエコパーク(生物圏保存地域)」に名乗りを上げることになり、町民報告会がありました。認定まで 3 年かかる予定です。
- 日本自然保護協会と第一回「流域 commons」打合せ
- 31日 山崎氏、西村会員による生き物調査開始。今後随時やっていく予定。結果報告は来年。
- 31日 茅株植栽実験、茅衰退対策の試行として約 20 m²、15株を移植しました。(ブログ参照)

【 6月 】

- 21日、22日 一般参加歓迎プログラム②「芦ノ田古道散策」を実施。首都圏勢14名に加え現地勢が4名が加わりました。また、群馬クリーン大作戦の一環で、県道の草刈をしました。(本文とブログ参照)

- 28日 第一回東京楽習会「利根運河—その歴史と役割を学ぶ」を流山市にて実施。利根運河交流館を訪問、付近を散策しました。参加者9名。(本文参照)
- 28日 全国草原ネットワーク総会が開かれ、笹岡顧問が参加、当塾の活動予定など報告しました。

【7月】

- 4日 藤原にて麗澤フィールドワーク実施。東京から8名、現地11名のインストラクターと146名の生徒が参加、自然素材によるクラフトが人気でした。
- 7日 事務所移転
- 11日 東洋大学佐野ゼミにおいて2年生11名に commons をテーマに活動内容などをレクチャー
- 26・27日 一般参加歓迎プログラム③「茅場整備・生き物調査」実施。刈払い機ミニ講習会をしたあと、茅場の刈り払いをしました。13名が参加(本文参照)。

【8月】

- 9日 防火帯刈り払い完了。(ブログ参照)
- 17日 諏訪神社夏祭り・藤原区民祭
- 23日 連携団体ベイブランアソシエイト主催のサンセットクルージングに18名が参加しました。

(以上)

■2014「一般参加歓迎プログラム」② 開催報告 & 参加者レポート

6月の一般参加歓迎プログラムは、7月に実施された麗澤中学の水源の森フィールドワークに向けての予行演習も兼ねて実施されました。小雨模様でしたが予定通り日程をこなし、多くの収穫がありました。初参加の星見さんより感想をいただきました。

6月の活動「芦ノ田峠古道散策」

草野 洋

6月の定例活動は、一般参加歓迎プログラム「芦ノ田峠古道散策」を21日、22日と実施しました。

当日はあいにくの曇天でしたが新緑から濃い緑に変わる初夏の藤原に新規参加者2名を含む14名、その中には、地元水上の自然・山岳インストラクターの3名の方の参加がありました。



青木沢集落から武尊川を渡り、杉の造林地、峠十二様、平出集落に至る約1.4km、時間にして45分ほどの行程です。このコースには沢山のインストラクションネタがありますので、このプログラムは、7月の麗澤学園中学1年生の奥根水源の森フィールドワークのコースの予行練習を兼ねて、地元インストラクターとの技術交流の場としています。事前にその趣旨を説明し、生徒用のテキストを示し、どこでどんな説明をするのかを想定して歩きます。



青木沢集落の田園風景は周囲の山々を眺めながら「森林のいろいろな働き」を説明ができます。水量豊かな武尊川は、森林の水源かん養機能の説明がやりやすく、桂の大木や道祖神、お社跡、オニグルミの実、植栽地、若齢広葉樹林、湿地、峠の十二様、ブナ二次林と森林土壌、メグスリノキなどカエデの種類も多く、カラマツ人工林、炭窯跡、サワグルミ林と題材につきません。そして森林全体で森林生態系の豊かさと森林の地球温暖化防止の働きの説明もできます。かつて地元の方々の生活道であっただけに歴史ある道祖神や道標がそこらにあり、山村の暮らしや平出集落とダム水没など地元ネタも豊富です。

峠に着いたところには、雷雨もあって心配しましたが、ヒルの被害も一人だけに終わり、平出集落に着くことができました。どこで何を説明するかは各インストラクターの裁量ですがとにかく材料に恵まれたコースです。

2日目は、ススキが旺盛に生育始めた上ノ原と木馬道コースを歩き、麗澤中フィールドワーク本番での草木クラフトの段取りを共有しました。そのあと、関ヶ原民宿のバーベキューに舌鼓を打ち2日間のプログラムが終了しました。



夏の藤原「上ノ原」を初めて訪れて

星見 定広

藤原地区は毎年のように訪ねますが、いつもスノーシューなので、夏の藤原草原は初めてでした。高原のからっとした空気と涼しさ、その中で笹を鎌で刈るのは爽快でした。

あいにくの小雨交じりの時がありましたが、これも山の一面。樹木は雨をワイングラス（頭の中ではこんなイメージ）のように受け止め、幹を伝わって根元へ導く。街路樹は根元の地面が狭くても、こうやって水を取り込む。雨が降ってこそ、イラスト付きでの説明には納得です。

作業の後の宿の庭でのバーベキュー&お酒（運転手の方々の申し訳ありませんでした）、特に、目の前に広がる藤原の田園風景は素晴らしかった。バリ島のレストランからのライステラスを思い出します。雨上がりの緑が映え、なおさらでした。

■2014「一般参加歓迎プログラム」③ 開催報告 & 参加者レポート

7月の一般参加歓迎プログラムは、防火帯の刈払いとフィールドの草花や樹木の観察を併せて行いました。参加者レポートは、ご夫婦で参加された藤岡さんと、日光茅ポッチの会の飯村さんより寄稿いただきました。ともに初めての参加です。

刈払機に挑戦、防火帯刈払いとフィールド観察 草野 洋

7月の定例活動は、梅雨も明け、都会のうだるような暑さを避けて26日、27日に実施しましたが上ノ原も負けじと暑く、炎天下の中、防火帯の刈払いと夏の草花、樹木観察を行いました。

今回は、13名の参加者がありました。このイベントを朝日新聞で知ったという藤岡さん夫婦、ホームページで青水の存在を知り、かねてより参加したかったという草原オタクの「日光茅ポッチの会」のお二人の4名に初めて参加いただきました。

プログラムは、刈払機を使っての防火帯刈払いと夏の装いの草原とミズナラ二次林の草花、昆虫、野鳥の観察です。

初めに全員に刈払い機の安全教育として、使い方について実物を使って講習を行いました。

特に安全作業では絶対やってはならないことを徹底し、疲れにくい能率の良い使い方のコツを刈払い機の構造と結びつけて理解してもらった後、刈払機使用希望者6名は、カラマツ林境の防火帯を実際に刈払います。全く初めての人が2人、8年ほど前まで使っていた方が1人でしたので、しばらくはこの3人を後ろから見ながら、気がついたことはその場で



直していくようにしました。

刈払機は4台ですので30分程度で交代しながら刈ります。2回目の交代のころには要領がよくなり、不安全行動もなくなりました。どうやら全員がハマったようで黙々と刈っていきます。特に二人の女性の奮闘ぶりはさすが女性の時代です。写真は二人の「カリジョ」の作業ぶりです。

実家のお父上の作業を手伝いたいという動機で参加された稲さん、安定感のある作業ぶりです。

藤岡さん(奥様)は、さすが経験者、効率の良い大胆な刈り方をします。

一方、藤岡さん(ご主人)は草や灌木の中を確かめながら刈って行く慎重派。それぞれに性格が出ています。川端さん、松澤さん、米山さんは青水の会員ですので安心してお任せです。

この日は日差しが厳しい暑い日で、みなさん大汗をかき十郎太の沢の冷たくおいしい水で水分補給しながらの作業となり、終了するころにはかなり疲労気味でしたが、自分たちの刈跡を見て達成感を感じておられたようです。

今回の宿は湯の小屋温泉「照葉荘」、温泉が疲れを癒してくれました。

2日目は、すっかり慣れた皆さんにお任せしたら、1日目に刈り残したカラマツ林境をやり上げ、十郎太沢境まで予定以上に実施することができました。青い所が今回刈払い済み、赤が8月8日に日帰りで実施した部分です。(次頁図面参照)。

フィールド観察については、案内役を買ってくれた西村会員の報告をご覧いただきたいと思いますが、以下は私が受け持った2日目の内容です。十郎太沢沿いの夏の草花に、昆虫たちがひっきりなしに訪花する、まさに生き物たちがにぎわいを見ることが出来る草原、まだ青いけれど秋の実りに向かって果実を育てているトチノキ、ウワミズザクラ、ヤマブドウ、コクワなどたくましい樹木たちを観察することができました。写真は、その一部です。



夏の装いの上ノ原とミズナラ二次林フィールド観察 西村 大志



カセンソウとヒメシジミ

7月26, 27日の定例活動のフィールド観察では、夏盛りの草原と森林を歩きながら植物、昆虫を中心に観察を行いました。

上ノ原は山菜の季節から、花と実りの季節へ。色とりどりの花が出迎えてくれました。黄色い大きめの花を咲かせるカセンソウ、虎の尻尾のような白い

花穂のオカトラノオ、紫色で釣鐘状のホタルブクロ、ヤマホタルブクロはあちこちに咲き乱れ、特に目立っていました。

花々にはたくさんの虫たちが訪れます。シジミチョウやヒョウモンチョウの仲間が舞い踊る様子は草原に華やかさを添えていました。参加者の飯村さんは蝶大好きな方で、蝶を見つけたものすごい速度で網を振っておられました。緑色の宝石のように輝くシジミチョウを3種類、捕まえて見せていただきました。



ヤマホタルブクロ

森の入り口ののところでは、ヤマグワ、クマイチゴが実をつけていました。林さん、関根さんと味見をしてみると、野性味のある甘酸っぱさで、自然の恵みが感じられました。ヤマブドウもまだ青いですが実をつけており、秋の実りに向けて着々と準備しているようでした。

林内に入ると一気に涼しくなり、快適に散策できました。林床には魅惑的な色のタマゴタケを観察することが出来ました。木漏れ日の小道に鳥のさえず



防火帯刈り作業図



岡虎の尾



神秘的な色のタマゴタケ

今回の、参加者の中の「日光茅ポッチの会」のお二人はそれぞれ蝶と野鳥に大変詳しいお方でした。茅ポッチの会も草原を守る志をもった同志、夕食後の交流会も大変有意義でした。これからもお互いに情報交換などでお付き合い願いたいと思います。

りが響くと、鳥に詳しい竹森さんが解説してくださいました。ホトトギスのさえずりは、確かに「トッキョッキョカキョク」と鳴いているようでした。

一緒に歩くとそれぞれの目線、感性、興味、知識があわさって、何倍もおもしろいことに出会える、んな気がしたフィールド観察でした。

茅場整備体験レポート

藤岡 和子

[群馬みなかみで茅場整備と生き物観察 茅場を維持するための整備作業をします。1泊3食付1万円。]新聞に小さな記事を見つけました。「なんだか楽しそう。茅場って？」私は、漠然としたイメージしか湧かず、早速ネットで検索しました。

【茅場】=屋根を葺く茅の茂った株を刈るところ。まぐさば。

茅葺屋根を維持するには、茅の育つ場所の維持も必要なことだと知りました。

当初、私一人で申し込む予定でしたが、夫も参加したいと言います。私は、刈り払い機経験者、夫は未経験者です。これは夫にとって良いチャンスと思い、夫婦で参加しました。

当日、入会の森到着すぐの昼食は、前塾長の清水さんと一緒にいただきました。目の前に広がる草原を見ながら、春の野焼き、秋の茅刈りの話を聞いていると作業への期待が高揚します。昼食後、全員で刈り払い機の説明を受け、森林散策が防火帯整備作業に分かれました。私たちは、防火帯整備作業に加わりました。この日は、山でも 30℃を越える猛暑。草原は木陰が無く、炎天下での作業となりました。エンジンの熱と、日差しで汗が止まりません。そんな時、オアシスとなったのが、十郎太沢の湧き水でした。冷たく、まるやかな水が火照った体にすっとしみ込んでいきました。

この沢の水ですが、二日目の朝水汲み場へ行くと、水量が昨日の1/10くらいになっていました。皆、この時期に見たことの無い現象だと驚いていたら、10分足らずで水量が戻り、再度驚きました。自然の面白さを感じた場面です。

夜の交流会では、各々何処の河川流域から来たのか紹介されていました。今まで、都道府県名や市町村名での紹介はありましたが、流域で住まいを伝えたのは、初めてのことでした。(私たちは相模川流域から来ました) 飲水思源の考えからでしょうか。二日目の予定ですが、私たちは、思い切り体を動かした気持ち良さが忘れられず、刈り払い作業をする意気込みでいました。しかし、交流会での楽しい話を聞いているうち、入会の森をまったく知らないことに気が付き、予定を変更して森林散策に加わることにしました。

輝く青緑色の羽を持つジョウザンミドリシジミは、背面から見ると羽色が見えなくなりました。蝶の視

覚を観察できました。カエデ科の木は、葉形でなく、葉の付き方、種子の形で鑑別することを知りました。タマゴ茸は、卵の殻のような白いマッシュルーム状の物を割って、黄身のようなつるんとした傘が出ています。個々の成長速度の違いで、過程が一見出来ました。炭焼き用に伐木した株は、ヤゴが生え株立ちとなります。元来自然森でなく、木馬道など嘗て人々の生活に根付いた森であったことを体感しました。森林散策は、五感(歩く 聞く 見る 触れる 味わう)で楽しみつつ色んなことを教えてくれました。

一日目の刈り払い作業も、二日目の森林散策も、あっという間に時間は過ぎていきました。楽しかったせいか、少し寂しく感じています。それでも、参加された方々との会話の中で、きのこ狩りたい、石組みしたい、茅染めしたいと、チャレンジしてみたいことが沢山出来ました。そして、再生古民家も楽しみです。また参加したいと思います。

上ノ原入会の森の印象

日光茅ポッチの会 代表 飯村孝文

7月26日、27日の一般参加プログラムに参加させていただきました飯村と申します。栃木県日光市に残された採草地を守っていくため、昨年秋、仲間と共に「日光茅ポッチの会」という組織を立ち上げ、活動を始めたばかりです。

以前から十数年の活動の歴史を持つ森林塾青水さんのお話を伺いたいと思っていましたが、今回ようやく念願の「上ノ原入会の森」を歩き、皆さんからお話を伺うことができました。私と竹森さんの二名での参加です。

初めての上ノ原入会の森、なだらかな斜面に広がる茅場は、とにかく広い！明るい！開放的！、良く手入れされている草原、という第一印象でした。そして茅場から連続する森が茅場を守るかのように立地し、森から流れる冷たいおいしい水が茅場や生き物たち、そして作業をする人々を潤しています。茅場にはカセンソウ、オカトラノオ、ホタルブクロ、オミナエシなどの花、ヒョウモンチョウ類やたくさんさんのヒメシジミなど、日光の採草地と共通の草原性植物や昆虫がたくさん見られます。

二日間の作業は、防火帯の刈り払い組と自然観察組に分かれましたが、我々は自然観察に参加させていただきました。植物に詳しい西村さんにご案内いただき、茅場を流れる沢から登り森に入り、「柞の泉」を経由して茅場に戻ります。私はこの時期、金緑色の翅を輝かせて森を飛ぶゼフィルスと呼ばれるシジミチョウの仲間が気になります。「柞の泉」がつくり出す森の空間はまさにゼフィルスが好む環境です。目をこらしていると枝先に羽を広げているメスアカミドリシジミとエゾミドリシジミの二種類のゼフィルスを、二日目の朝は茅場の入口でジョウザンミド

リシジミを見ることができました。他にも森の中はタマゴタケや初めて見たエゾスズランが見られ、草花が咲き乱れる茅場とそれに繋がるゼフィルスを育む豊かな森がある環境をたいへんうらやましく思いました。

初日の夜は宿で楽しみにしていた皆さんとの情報交換（飲み会？）です。清水顧問、草野塾長をはじめ皆さんが例外なくお酒に強いことに驚きながら、実は負けずに酒好きな私たち二人は、さまざまなお話を伺いながら楽しい一夜を過ごすことができました。

印象的だったことは、茅刈りはすべて手作業で行っていること、茅刈り検定があること、茅刈りや火入れを地元の方々と行っていること、さらに刈った茅を買い取り、利用する仕組みができあがっていること、またかつては200haもの広大な茅場が広がっていたこと、それが茅の需要低下と共にスキー場やゴルフ場などの開発で失われてきたこと、高齢化・後継者不足など、こういったさまざまな課題を一つずつ解決されながら現在の活動があるのだなど痛感しました。意義深い一夜でした。

いいとこ取りをした二日間になってしまい、草刈りで汗を流された方々には申し訳なく思いながら、とても楽しく有意義な時間を過ごすことができたこと、皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。

(日光茅ボッチの会 Email:nikko@kayabotti.jp)

【観察リスト】

花： カセンソウ、ホタルブクロ、トリアシショウマ、オカトラノオ、オミナエシ、ノアザミ、ノハラアザミ、タケニグサ、イケマ、ヒヨドリバナ、クロバナヒキオコシ、ハバヤマボクチ、エゾスズラン

蝶： ヒメシジミ、エゾミドリシジミ、メスアカミドリシジミ、ジョウザンミドリシジミ、ミスジチョウ、メスグロヒョウモン、オオウラギンスジヒョウモン、ウラギンヒョウモン、ミドリヒョウモン、キアゲハ、ヒメキマダラセセリ

他： コエゾゼミ（声）、タマゴタケ

■ 2014年度第1回東京楽習会「利根運河—その歴史と役割を学ぶ」開催報告 稲 貴夫

6月28日に第一回東京楽習会を利根運河で開催しました。参加者九名は午前十時に東武野田線の「運河」駅に集合。丁度、毎月一回開催されるイベント「うんがいい！朝市」が開催されている運河水辺公園を散策しながら、流山市の利根運河交流館を訪ね、中島昭治さんよりお話をいただきました。

利根運河交流館は、江戸川河川事務所利根運河出張所の建物の一室にあります。NPO法人「コミュニティ流山」が運営する流山市の施設です。中島さんはNPOのメンバーで、以前は交流館の館長をつとめていた方です。以下はお話の要約です。



○利根川と江戸川を結ぶ利根運河は、総延長8.5キロメートル。野田市、流山市、柏市の三市を流れる。運河の竣工は今から124年前の明治23年6月18日で、竣工式には山縣有朋総理大臣も参列。○江戸のはじめ、江戸湾に直接そそいでいた利根川の流れを常陸川と繋げて銚子から太平洋へと導く「利根川東遷」事業が、徳川家康によって進められた。これにより、東北地方からのお米や海産物などが、船の難所である鹿島灘や、沿岸に浅瀬の多い江戸湾を通らずに、利根川、江戸川を經由して江戸に運び込む水路が開発された。そして利根川の水運は、百万都市江戸の賑わいととも大きく発展した。○この銚子と江戸を結ぶ航路は、明治に入っても高瀬舟などが盛んに往来した。しかし、上流からの土砂の堆積などで船の運航に支障をきたすこともあり、また時間の短縮も求められたことで、銚子方面から関宿で江戸川に入る東京湾までの航路をバイパスする運河開削が構想される。これが「利根運河」で、当初は茨城県側の働きかけで国の事業として計画がはじまるが、国は手を引き、民間の力で運河を開削することになった。明治20年に利根運河株式会社が設立。一株50円の株式八千株、40万円の資本で明治21年に工事が始まった。○計画の段階から関わったお雇い外国人のオランダ人土木技師・ムルデルは、運河沿いに居を構えて工事を監督。二年間の工期と延べ220万人の労働者の手により運河は完成した。総工費は57万円、今日の約150億円に相当するとのこと。主に近隣の農民が農閑期を中心に工事に携わったが、囚人なども労働に従事した。



○完成した運河の川幅は18メートルで、高瀬舟や外輪の蒸気船など、年間三万隻もの船が運航した。
○しかし、運河が航路として栄えたのは約20年ほどで、鉄道の開設や道路網の整備により船運は次第に衰退。昭和16年の大水害で大きな被害を受けると、利根運河は国に売却され会社は閉鎖となった。
○こうして運河としての役割は終焉を迎えたが、その周囲は里山や田園など豊かな自然が残されとおり、運河をその歴史とともに後世に残してゆこうとの機運が生まれた。利根運河は経済産業省より、近代化産業遺産に認定されている。

○運河が完成した当初は、江戸川から利根川へと流れていたが、現在は逆に流れている。但し、利根川側の水門は閉ざされているため運河には周辺からの排水が流れているのみで、船が往来していた時代に比べて、水量は極端に少なくなっている。



一行はその後、利根運河を江戸川方向へ約一キロほど散策、河畔にある蔵元「窪田酒造」で地酒を購入した

り、運河所縁の「利根運河大師」にお参りしたのち、地元の老舗「割烹新川」で昼食をとり本年度第一回の楽習会は終了しました。

全長8.5キロメートルの利根運河周辺には他にも見どころが沢山あります。皆様も一度お出かけください。

■麗澤中学1年生みなかみフィールドワーク 開催報告 浅川 潔



7月3日～5日に麗澤中学1年生のみなかみフィールドワークが藤原でおこなわれました。初日は、学校からバスに分乗して11時半くらいに藤原湖に到着し、地元の林親男さんが藤原集落の生い立ちと藤原湖の歴史を話してくれました。この場所は634m位の標高があり、スカイツリーの高さと同じく



らいですぬなどと、大変わかりやすく説明してもらえました。生徒達は、その後奈良又ダムに行き昼食をとりダム見学に。

私達は上ノ原に行き、今回遊びプログラムとしてクラフト体験を行なうことになったので、昼食後にその材料を揃える作業をしました。明日参加してくれる地元のインストラクターも3名手伝ってくれて、茅編簾づくりのススキの皮むきと揃える作業、葉脈染のための草木の葉っぱを採取しました。

宿は吉野屋に泊まり翌日の天気予報を確認すると、どうやら雨模様ということで、木工クラフトをホテルサンバードの炊事場で行なうように変更し、各グループの日程調整を急遽行ないました。隣の部屋では、今回のクラフトのプログラムを考えていただいた岡田さんと同部屋の三好さんが夜なべしてクラフトの準備をされていました。



フィールドワーク当日の朝、天気予報では雨に変わるのは15時頃からで、それまではもちそうでした。ホテルサンバードに8時45分に集合して、8グループに2名インストラクター（森林塾青水7名、地元インストラクター10名）がついて、それぞれのプログラムコースに分かれました。

今回は昨年より時間に余裕を持ったゆったりした日程にし、知識を詰め込むのではなく、楽しめるプログラムに変更し、また、インストラクターには水源地、緑のダムなど共通の認識をベースに案内してもらうようにしました。私のコースは、最初に青木沢集落から芦ノ田峠の古道を平出集落まで歩きました。ヒルを心配しましたがお目にかかることはなく、今回は下りのコースなので皆さん元気でした。その後、バスで諏訪神社に移動し舞台屋根を見ながら、上ノ原に行きここで昼食をとりました。



午後は最初に上ノ原ススキ草原の十郎太沢沿いを歩き、その後、上ノ原のススキが茅葺き屋根に使われている雲越家住宅を見学しました。そしてホテルサンバードに戻り、今回変更プログラムの目玉であるクラフト体験をおこないました。①木の枝などを利用した木工クラフト、②周辺の草花を針金とフローテープで巻いた草花のコサージュづくり、③葉っぱに絵の具を塗りハンカチ位の大きさの布にのせてこする葉っぱの葉脈染め、④ススキを茅編み器で編むミニ簾づくりの4コースに分かれました。

比較的人気なのは、ミニ簾と葉脈染めでしたが、木工クラフトの生徒も時間をかけて作っていました。木工クラフトは時間がかかるので、1時間で作るのには難しかったです。

天気は最後に少し雨に降られましたが、最後まで生徒が元気で楽しそうだったので、今回は取りあえずうまくいったのではないのでしょうか。



葉脈染めに熱中する生徒たち



葉脈染めの作品



■ 藤原現地報告

北山 郁人

今号より、古民家再生・整備状況とともに、他団体も含めた藤原・上ノ原での様々な活動を、みなかみ事務所長の北山塾頭が「藤原現地報告」として紹介します。

「上ノ原」活動報告①

高崎経済大学の学生が活動体験

高崎経済大学でエコツーリズムを勉強している学生が、三六名で藤原の活動を体験しに来てくれました。午前中は、民宿吉野家で藤原の郷土食の「ぼた」を作り、午後は、国指定文化財になっている雲越家住宅を見学し、その茅葺き屋の材料であるススキを育成している上ノ原の茅場の整備活動を体験していただきました。



※右上の写真は、ミニ簾づくりとその作品

古民家再生・整備状況報告

北山 郁人

床も仕上がり、土間の廃材も整理でき、だんだん使いやすくなってきました。あとは、台所を作れば、とりあえず利用が可能になります。広い土間には、かまども作る予定です。



(「そうだむさあ」第7号より転載)

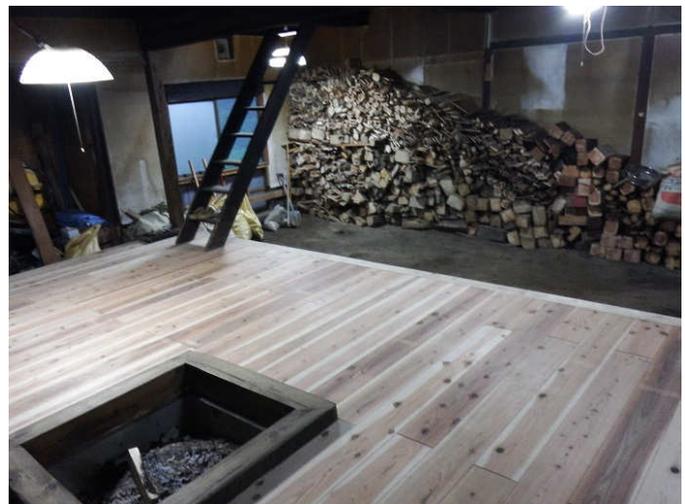
「上ノ原」活動報告②

藤原中学校の生徒が体験学習

藤原中学校の2、3年生4人が、総合学習の一環で、藤原の自然や文化を勉強するというテーマで自然観察や森林整備の体験を行いました。地元の子どもたちがもっと地域の自然に触れる機会を増やしていきたいと思います。十月には、今回のつづきで炭焼きの体験も予定しています。



(「そうだむさあ」第8号より転載)



藤原の”ほっと”ショットコーナー⑧

中村 智子

地元・中村智子さんの、見てほっとする“photo”ショット・コーナー。今号は、最近撮影した動物の特集です。藤原では、普段の生活の中で、様々な動物達に出会えます。(編集子)



2014. 8. 15 矢木沢ダムで、お食事中的のチョウゲンボウ。



2014. 7. 6 自宅の裏の林にアオサギがいました。この頃、頻繁に見かけます。



2014. 8. 5 けものみちで、子熊が走り出た林に親熊が歩いていました。



2014・5・4 コブシに冬鳥のシメがいました。これから、旅立ちかな？



2014. 8. 1 道路にアオダイショウがいました。きれいな蒼に見とれてしまいました。



2014・4・29 ニホンカモシカが、採り頃のコゴミの中で、ゆったりとお座りしていました。

■野守のつぶやき②～初めての夏の思い出

清水 英毅

●「草木塔」雲隠れ事件！

7月26日午前。まずは「草木塔」にご挨拶をと思い、通いなれた十郎太沢筋の道を刈り払いしながら登った。ところが、いつもの御座所にお姿が見えない。まさか、この暑さに堪らず森にお隠れになったか。辺りを見回してみると、何と十郎太沢の底に横になって涼んでおられた！大の男が二人でようやく抱えられるほど重たい御身、



自然の力や熊公のいたずらとは考えられない。面に何の刻字もない「のっぺら坊」様にて草木供養の塔とは知らず、何方さま達かが投げ入れたのに相違ない。悪意はなかったであろうが、石塔に宿る原山祇神や加屋野姫様たちのお怒りを買わなければよいのだが……。一刻も早くご安置をと思ったが、年老いた「野守」一人の力ではどうしようもなかった。



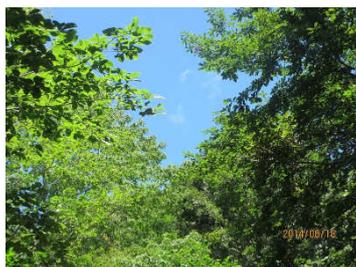
月が替って8月17日、諏訪神社の夏祭りを楽しんだ日の午後。一幸さんと吉澤さんのお力を借りて、沢底の「草木塔」救出作戦敢行。ようやく元の位置にご安置申上げることができた。再発防止のため、青茅3本でコヨリをつくり、頭部にぐるりと巻いて差し上げた。長い間、ほったらかしにして御免なさい。

●ゼフィルスの日溜り

7月26日午後。「日光茅ポッチの会」の飯村代表をご案内して森に入った。上ノ原「入会の森」は想像以上に広く素晴らしいと仰りながら、持ち前の豊かなご学識で、小生の知らなかった蝶類のことなど色々と教えて下さった。メスアカミドリシジミ、エゾミドリシジミ、ジョウゼンミドリシジミ



などゼフィルスと総称される蝶を次々に捕まえて、その金緑色の美しい翅を見せて下さった。ゼフィルスはブナ科の植物を食べる森の蝶たちで、ミズナラ林に囲まれた「柞の泉」でも出会った。彼らは、こんな感じの場所を好むらしい。飯村さんにネーミングをお願いしたら、『ゼフィルスの日溜り』はどうですかと。後日、調べてみると、ZEPHYRUSはラテン語で“そよ風”の意味らしい。憩と安らぎの場「柞の泉」にピッタリではないか！



●上ノ原の「奥の細道」

8月18日、諏訪神社夏祭りの翌日。ノコギリと手鎌一丁、熊鈴鳴らしながら「入会の森」の散策路を歩いた。草原を突っ切って森に入る。台風で落とされた木の枝を片づけながら進む。木馬道の交差点を右に曲る。まだ、マップにも載せていない未踏ルートだ。20メートルも行くと、道の左（山側）にお気に入りのメグスリノキがある。その先は大きな風倒木が邪魔して道を遮っている。でも、メグスリノキが紅葉するころには、倒木を片づけてその奥を極めてみたい。きっと、炭焼きの窯跡があるはずだ。

「柞の泉」で一服。ミドリシジミたちには出会えなかったが、オニヤンマが悠然と飛行を繰り返している。まさに、『ゼフィルスの日溜り』にふさわしい心地よい眺め。

ヤマザクラの小道を下る。山側に楚々たる風情のエゾズラン。（写真、右）坂を下りきると、そこは巨石が寄り添う磐座の森。十二神様たちの寄合処だ。夏はここでお昼寝、冬はお茶ッぴきを楽しんでおられる。人間どもは、目礼して静かに通り過ぎるべし。



木漏れ日を浴びながら西に進む。やがて、道を見失いかけるほど笹がはびこる明るい場所に出る。ここで、やおら手鎌をふるって笹刈り。一年放っておくと、かなり密集して生えて小道を埋め尽くす。でも、気持ち良い汗をかくには丁度よい作業量。その先の丘には、休憩に格好の畳石があるのだ。

ここで一服。十郎太の沢水で喉うるおしながら、下手でも一句詠んでみたいもの。これぞ、上ノ原の「奥の細道」。藤原俳句同好会の皆さま、吟行会で是非ご利用を！

●海の魚は森の賜物(もの)

8月23日。「野守」初の夏の締めくくりは川を下って船橋港へ。NPO ベイブラン・アソシエーツ(大野一敏代表)主催のサンセットクルージングに、当塾会員・会友18名の仲間と参加。大野船長が舵を取る大平丸の心地よい揺れ、潮の香とデキシールランドジャズ。遠く富士山を背景に東京湾に沈む夕日を満喫。帰路、有志一同で大平丸直行便の魚を賞味できる『三番瀬』へ。スズキやサバのお刺身など東京湾の海の幸に舌鼓。海の男のレジェンド・大野さん曰く「海のお魚は森の賜物(もの)」。江戸川、荒川など東京湾へ注ぐ河川水の大方は、我が利根川源流の緑のダム群が供給している。あらためて、「飲水思源」肝に銘ずべし。

2014年8月25日 (青)

～編集後記～

『茅風通信』第43号をお届けします。

本号は5月から8月までの活動が中心ですが、夏の期間、「上ノ原」は環境学習の場として広く利用されています。今号より古民家再生の状況とともに、「上ノ原」の活用状況などを「藤原現地報告」として紹介してまいります。

本誌も青水の活動とともに十三年目。会員、地元の皆さま、そして藤原・上ノ原から利根川流域へと広がるフィールドとを結ぶ役割を目指してゆきたいと思っております。読者の皆さまからの話題や情報をお待ちしています。(編集子)